やぶなべ会報

自然を見つめる「やぶなべ会」（青森）発行

誌　　名	やぶなべ会報
号/発行年/頁	29 / 2011 / 19-21
タイトル	新幹線新青森駅シンボルツリー　“やぶなべ会”がヒバに変えた!
著　者　名	やぶなべ会会長　室谷洋司

自然を見つめる やぶなべ会（青森）

新幹線新青森駅シンボルツリー

“やぶなべ会”がヒバに変えた!

やぶなべ会会長　室　谷　洋　司

「わたし、気が付くのが遅かったんです。もうとんでもない話になっていました。それで『考える会』に問題提起をしたら、やっぱりとんでもない、と。まず、何で北海道の木が青森のシンボルにならなければならないのか。」

2007年暮れ、やぶなべ6代の棟方啓爾さんが2010年度に開業する新幹線新青森駅の顔とでもいうべきシンボルツリーに、どうもトドマツが決まりそうだと、当惑顔に話した。同氏は青森市の行政評価委員をやっていて、トドマツの話を聞きつけ早速、新幹線対策室に事情を聞きに行った。ところがどうも決定がなされてしまっていた。どうしようか、と「考える会」で善後策を考えることにした。

「考える会」とは、正式名が「青森の自然環境を考える会[1)]」で2004年2月に組織された。青森に拠点をおく「自然観察指導員」「森林インストラクター」「やぶなべ会」「青森野生生物研究会」などに所属する有志で結成され、その目的は「青森の自然環境を考え、良好な姿で後世に伝えます」というものである。この会の特徴は独自の会報をもたず、活動内容（経過と結果）をもっぱらホームページ「青森の自然環境を考える」で迅速に関係者はもちろん、あまねく一般に知らしめるということである。その機動性はこのホームページを見れば一目瞭然に納得できる。

同会の2004年から始まった活動は、青森市の水源林である横内川源流域で、そこに育まれてきた良好なミズナラなどを皆伐しブナを植樹する、といった青森市当局の愚行を阻止したことからも高く評価されている。メンバーがもつ専門的な知識もさることながらIT技術を駆使した発信と意見集約、さらにそれらで倍加させた情報発信は質、量ともに目を見張るものがある。そして、「やぶなべ会」有志はこれに深く関わっており、「やぶなべ会」を越えた分野において主導的な立場をとりながら目標の達成に邁進している。「やぶなべ会」の総意にもとづいていないことから、これまで「やぶなべ会報」に発表されることはなかったが、一定の結果がだされたものについては公表しておいたほうが良いのではないかと考え、今回、手はじめに“シンボルツリーの一件”を紹介することにした。

2010年12月、東北新幹線は盛岡終点（1982年）から遅れること28年で、ようやく新青森駅まで全通した。そして、駅正面に円すい形に植栽された9本の青森ヒバ。インターネットで「新青森駅　シンボルツリー」と入力して検索すると、さまざまなコメントが書き込まれている。「夜空にくっきりシンボルツリー」「高さ20mのヒバ、観光客を迎える」「シンボルツリーもステキです」「青森を明確に象徴する青森ヒバ」、などなど…。

行政はときとして、その無知無策ぶりをさらけ出すことがある。今回はその手法において外部委員会などを設置して一定の手続きを経たつもりかも知れないが、そこには“生き物”とか“自然”を対象とした専門的な知識が完全に欠如していた。もしシンボルツリーがトドマツになっていたら、デザイン

1) 青森の自然環境を考える会

目的　青森の自然環境を考え、良好な姿で後世に伝えます。　　事業　①目的達成のため必要に応じて関係機関とも協議していきます。②ホームページ「青森の自然環境を考える会」を公開します。③会報誌に代わる「青森の自然環境を考える」をCD−Rで製作します。④その他必要とされる事業を行います。　　発起人　自然観察指導員、森林インストラクター、やぶなべ会、青森野生生物研究会有志。

委員会の面々をも巻き添えにしながら“青森市の恥”が全国に広がっていたかも知れない。
根気のいった約3年間の市当局とのやりとりと結果をここに記録しておく。

シンボルツリー、トドマツから青森ヒバへの流れ

◇ 2007年3月　青森市が「新青森駅周辺公共施設デザイン委員会」設置、第1回委員会開催

その趣旨：新青森駅舎デザイン委員会で「縄文から未来へ－ほっとして郷愁が感じられるあずましい北の駅－」というコンセプトをまとめたが、さらに駅前広場や駅前公園、新青森駅前大通りなど、駅前周辺の公共施設も駅舎デザインと整合性をもたせることから設置。ここでシンボルツリーも検討されることになった。

◇ 2007年6月　同上第2回委員会開催

◇ 2007年9月　同上第3回委員会開催

◇ 2007年12月　同上第4回委員会開催

委員会は以上の4回開催されたが、シンボルツリーについてはトドマツで了承された。理由：優れた冬季景観、植栽環境への適応性、維持管理が容易、ほか。

なお、この間、トドマツが候補にあげられたことに対し、一般からの意見が青森県、東京都の在住者などから東奥日報（夕刊）「明鏡欄」に6回（2007.10.17、2008.1.8、同1.30、同2.4、同2.13、同2.22）投稿されたが、すべてがトドマツ反対で賛成は一通もない。

一方、青森県樹木医会など専門的な団体からもトドマツ反対が趣旨の提言がなされたが、この段階では委員会の方向性を変えるまでに至らなかった。

◇ 2007年12月20日　新幹線対策課課長と面談（市役所柳川庁舎2階会議室、考える会：事務局長）

◇ 2007年12月27日　シンボルツリー説明会（市役所柳川庁舎2階会議室、市側：課長・主幹・技師3人、考える会：事務局長）

◇ 2008年2月14日　シンボルツリー説明会（市役所柳川庁舎2階会議室、同上）

◇ 2008年3月8日　シンボルツリー説明会（市役所柳川庁舎2階会議室、市側：同上。考える会：7人）

3回におよぶ説明会は、「考える会」の申し出に対して、青森市の「新青森駅周辺公共施設デザイン委員会」所管の新幹線対策課が応じて開かれたもので、市側は当初、トドマツに決まった経緯を説明し、これに対して「考える会」は一貫してトドマツ反対を表明、ヒバを候補に再検討することを要請した。回を重ね3回目に至って市側はトドマツは“決定”でない、“内定”だとトーンをやわらげた。

◇ **2008年3月8日　青森の自然環境を考える会主催の座談会（青森市本町・養老乃瀧、13人参加）《資料1：本誌22～36頁掲載の「座談会　新幹線駅前広場シンボル・ツリーが、何と北海道のトドマツに？」を参照》**

◇ **2008年3月8日　提言「駅前シンボル・ツリーの樹種は見直しが必要である」作成《資料2：本誌37頁掲載の「提言　駅前シンボル・ツリーの樹種は見直しが必要である」を参照》**

座談会と提言は、急いで文章化がなされ「考える会・ホームページ」で内外に公表された。合わせてPDF版も作成し、これを印刷して市当局など関係者に送付した。反響が大きく複数の市議会議員から提供の要請があり、市政における資料としての使用を認めた。

◇ 2008年5月26日　青森市議会新幹線対策委員会でトドマツ内定を再検討

◇ 2008年5月27日　「東奥日報」(朝刊):新幹線新青森駅シンボルツリー「トドマツ」見直しも…市、異論受け再検討《資料3: 本誌38頁掲載の『「東奥日報」(朝刊):新幹線新青森駅シンボルツリー「トドマツ」見直しも…市、異論受け再検討』を参照》

◇ 2008年6月16日　青森市議会定例会でシンボルツリー、青森ヒバに決定

◇ 2008年6月17日　「東奥日報」(朝刊):新青森駅前広場シンボルツリー、青森ヒバに変更《資料4: 本誌39頁掲載の『「東奥日報」(朝刊):新青森駅前広場シンボルツリー、青森ヒバに変更』を参照》

◇ 2008年10月3日　「東奥日報」(朝刊):新幹線新青森駅シンボルツリー、青森ヒバ円すい形に…青森市計画、10年春、9本植栽《資料5: 本誌40頁掲載の『「東奥日報」(朝刊):新幹線新青森駅シンボルツリー、青森ヒバ円すい形に…青森市計画、10年春、9本植栽』参照》

◇ 2010年9月22日　新幹線新青森駅シンボルツリー植栽《資料6: 本誌41～42頁掲載の『「シンボルツリー・ヒバ」植栽日の記録(2010年9月22日)』を参照》

シンボルツリー・ヒバの植栽

「考える会」のホームページには、つぎのように写真付きで記録された。

「シンボルツリーは、その樹種指定を巡って新聞紙上でも大きく取り上げられました。一旦トドマツと決定したのですが、『青森の自然環境を考える会』の申し入れにより、最終的にこの郷土樹種ヒバに決定したのでした。」

ただ、ホームページ管理者の棟方啓爾さんは、つぎのように心配事も書いている。

「森で仲間と一緒に育った樹なので期待通り生長するか不安は残る」。

これは青森ヒバの森林生態を考えたうえのことで、当初、「考える会」は青森市内に移植され単独樹として生長していた青森ヒバを譲渡可能と市側に提案していたが、結局は受け入れられなかったのである。

もう一つ、このシンボルツリーを広告塔に、堅牢・優良材としての「青森ヒバ」を全国に発信したらどうかという意図も込められ、適切な案内板の設置も要望していた。今のところ、これにあやかるとか要望に応えようとする関係者の動きは見られない。